

紹介

森谷公俊著

『アレクサンドロスの征服と神話』

(興亡の世界史 第01巻)

「アレクサンドロスという名前には、人を惹きつけてやまない魔力のような輝きがある」。本書はこの印象的な一文をもつて書き出される。

事実アレクサンドロスの生涯は彼の同時代から関心の的となっており、多くの作家たちが大王伝を著し、さまざまな大王像を描いてきた。現代でもアレクサンドロスを題材にした小説(例えば、阿刀田高『獅子王アレクサンドロス』講談社、一九九七年)や映画(オリバー・ストーン監督『アレキサンダー』二〇〇五年二月、日本公開)などが作成されている。彼にかんする研究書ともなれば、それこそ枚挙にいとまがない。その中でアレクサンドロスは「天才的な將軍、偉大な哲人王、ギリシア文化の使徒、神にも等しい英雄」である一方で、

「飽くことを知らぬ征服者、無慈悲な専制君主、向こう見ずな暴君」という「千変万化のイメージ」を与えられてきた。これまでにアレクサンドロスにかんする多数の研究論文や著書を発表してきた森谷公俊氏は、本書で改めてこの「万華鏡のごとき」人物と向き合い、今世紀に相応しい新たなアレクサンドロス像を浮かび上げさせることに挑戦する。

本書の構成は次の通り。

はじめに

第一章 大王像の変遷

第二章 マケドニア王国と東地中海世界

第三章 アレクサンドロスの登場

第四章 大王とギリシア人

第五章 オリエント世界の伝統の中で

第六章 遠征軍の人と組織

第七章 大帝国の行方

第八章 アレクサンドロスの人間像

第九章 後継者將軍たちの挑戦

終章 アレクサンドロス帝国の遺産

本書の目的が述べられた「はじめに」に続き、大王伝の原典と、現存する古典史料(現存する大王伝は、いずれも大王の死後三〇〇年以上経ってから作成されている)

の性格から、一六世紀以降の大王像について回顧される(第一章)。第二章は、アレクサンドロス登場までの歴史的背景(長きに亘るギリシア・ペルシア関係とマケドニアの興隆)についての考察。第三章から第八章は、本書における核ともいえる章々であり、アレクサンドロスの誕生から、大王即位、東方遠征と志半ばにしての死までが詳論される。これらの章では、背景となる略史が述べられた上でトピックごとの議論が掘り下げられており、予備知識を持たない読者にも分かりやすいような工夫がなされている。残る第九章、終章では、アレクサンドロスの死後に起きた後継者戦争からヘレニズム諸王国時代、さらにはそれ以降の時代について扱われる。

本書で新たな大王像を構築するにあたり、著者は二つの視点を採用したという。第一はアレクサンドロスを可能な限り客観的な歴史的条件の中で捉えること、第二はアレクサンドロスの業績を長期間の枠組みの中で考察することである。それゆえ彼の遺産にたいする本書の考察は、ヘレニズム時代からローマ時代という従来の研究範囲を越え、現代のアフガニスタンの問題にまで及

ぶ。その上で著者は、アレクサンドロスは理想的な指導者であったのか、という究極の問いに対しては「反面教師として見るほうが有益かもしれない」という冷徹な判断を下す。しかしながら本書は、脱英雄化されながらも、なお人を惹き続けるアレクサンドロスの不思議な魅力をわれわれに示しているのである。

(四六判 三八二頁 二〇〇七年一月)

講談社 税別二二〇〇円

(阿部指尾)

会 告

去る六月二十一日に開催されました史学研究会理事・評議員会におきまして、左記の事項が可決、承認されましたので報告申し上げます。

記

一、平成十八年度決算報告

一、平成十九年度予算案

一、役員の交替

1. 退任

常務理事 杉山正明(↓理事)、

理 事

吉井秀夫(↓評議員)

愛宕 元、鎌田元一、

監 事

南川高志(↓常務理事)

評 議員

宇野隆夫(↓評議員)

小野沢透(↓常務理事)、

河村貞枝、岸本美緒、

杉橋隆夫(↓監事)

庶務委員

川原吉貴、中山 俊、

野沢一基

橋川裕之

編集委員

南川高志、小野沢透

常務理事

杉山正明

監 事

杉橋隆夫

評 議員

宇野隆夫、江田憲治、

小松久男、辻 正博、

庶務委員

石田 俊、高崎みずほ、

松本 彩

編集委員

堀内隆行

編 集 後 記

昨年、中国に滞在していた際、日本の論文をダウンロード出来るサイトを知らないかとよく聞かれました。日本の研究誌も図書館の収蔵能力不足等によって完全にデータのみがやりとりされる日が来るかもしれません。それでも良質な論文の論理展開をページをめくりつつ追いかけていく楽しみは、典籍や考古遺物に触れたときの喜びにつながるものであり、この感覚を研究者は忘れるべきではないと考えております。(藤井)

本誌には独立行政法人日本学術振興会平成一九年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)が交付されております。

二〇〇七年六月二五日印刷 定価二二〇〇円
二〇〇七年七月一日発行

史 林 第九〇巻第四号(通巻第四四号)

京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内

電 話 FAX(〇七五) 七五三・二七八七

発行人 史学研究会

振替京都 〇一七〇・二五一五五番
理事長 金 田 章 裕

印刷所 中村印刷株式会社
京都市南区上鳥羽藤田二瓦